

進路だより

山梨高校 進路支援部

第4号 R7.3.25

令和6年度卒業生の進路状況について

初めての新课程入試に挑んだ今年度の卒業生の進路状況について報告します。

まず、進学・就職の合格状況は次の表のとおりです。

令和7年度入試(令和6年度卒業生) 合格状況

4クラス 139名		学校推薦型選抜(指定校制)			学校推薦型選抜(公募制)			総合型選抜・AO入試			一般選抜			計	
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	小計	種別
国公立大学	県内				3	12	15	1	1	2	1		1	19	82
	県外				1		1			0			0		
私立大学	県内	8	11	19			0	7	5	12	4	7	11	63	
	県外	7	3	10		2	2	4		4	5		5		
公立短大	県内		1	1			0			0	2		2	3	16
	県外			0			0			0			0		
私立短大	県内			0		11	11			0			0	13	
	県外	1		1			0		1	1			0		
看護 専門学校	県内		3	3		1	1			0		5	5	9	47
	県外			0			0			0			0		
専門学校/その 他	県内			0	1	5	6	4	2	6	4	2	6	38	
	県外	1	1	2		3	3	3	11	14		1	1		
計		17	19	36	5	34	39	19	20	39	16	15	31		145

		民間企業・事業所			公務員		
		男	女	計	男	女	計
就職(内定)	県内	2	4	6	1		1
	県外			0			0

進学に関しては、年々、総合型選抜入試を導入する学校が増え、本校でも総合型選抜での受験者の割合が3割を超えました。学校推薦型選抜(指定校制・公募制)入試での受験者の割合は約6割でした。また、県外受験者が昨年度より増えましたが、県内志向が続いています。

就職は、県庁(公務員)も含めて希望者全員が内定しています。

1) 国公立大学

例年同様、県内の国公立大学への進学希望者が多く、山梨大学5名(学校推薦型3名・総合型1名・一般選抜1名)、山梨県立大学12名(学校推薦型11名・総合型1名)、都留文科大学1名(学校推薦型)が合格し、進学します。また、今年度は県外に1名がチャレンジし、新潟大学の学校推薦型選抜に合格しました。一般選抜で山梨大学に1名合格したことも特筆すべき点です。

2) 私立大学

昨年度、指定校制による学校推薦型選抜を希望する生徒が極端に減少したため、それと比較すると指定校制の希望者が微増しました。例年同様に法・経済・経営・社会系の合格者が最も多く、26名(うち進学20名)、次いで理学療法士などを養成する医療技術系(看護系を除く)の合格者が14名(全員進学)となっています。

3) 短期大学

保育系学科に7名、栄養系学科に5名が進学します。県内の進学は大月短大が3名、山梨学院短大が11名です。短大進学者の多くは将来の希望職種が明確になっていることが特徴です。

4) 看護系大学・専門学校

看護系進学希望者全員が、県内の看護系大学や専門学校に進学します。山梨県立大学に5名、健康科学大学に5名、県内の専門学校（共立高等看護学院・甲府看護専門学校・帝京看護専門学校）に9名です。

5) 一般専門学校

例年同様に、美容師や自動車整備士などの将来の希望職種と直結した資格が取得可能な専門学校への進学者が多数を占めています。総合型選抜入試での受験希望者が増加しました。

6) 就職

全員、県内を希望し、内定しました。民間企業希望者は、進路就職担当による校内ガイダンスや夏季休業期間の就職者課外、外部の合同企業説明会や企業見学、ハローワークによる模擬面接などに参加し、9月から10月にかけての選考試験に臨みました。進学希望者よりも早い時期から準備を進める必要があります。

以上が今年度の卒業生の合格および進学状況です。とても健闘したと言えます。

山梨高校では、多様な進路希望を持つ生徒一人ひとりに教科指導に加えて面接・小論文等の個別対策を全校体制で行っていますが、何より進学に対して諦めずに粘り強く取り組んだ生徒たちの努力と、ご家庭の温かいご理解とご協力があったからこそその成果だと考えます。

在校生の皆さんも先輩たちに続くことができるよう、これからの努力に期待しています。

新年度に向けて **～今、すべきこと～**

進級するにあたり、今日から4月の始業式までの生活はとても大事です。新3年生にとっては“受験生”として、ここから勝負のときを迎えます。新2年生も、この春休み中、今までの生活を見直し、反省し、これからどのように過ごしていくべきかをきちんと考えましょう。

2月に実施された「3年生に聞く会」を通して、先輩たちの“合格”をつかみ取った背景には家庭学習の量や集中力などに裏付けされる“努力”と志望校合格に向けての熱い“思い”があったことが分かったことと思います。この先輩の話や3月の学年ごとに実施された進路ガイダンスから、学習へのモチベーションの上がった人も多かったのではないのでしょうか。4月からの学校生活であたふたしないためにも、有意義で充実した春休みにしてもらいたいと思います。

①家庭学習に取り組もう！ ～基礎学力の定着を目指して～

新2・3年生ともに、4月9日（水）は「学びの基礎診断（スタディーサポート）」を受験し、学習の定着度を図ります。各学年で提示されている課題を中心として今年度の復習にしっかりと取り組み、基礎学力の向上に努めた上で、「学びの基礎診断」に臨みましょう。

②校外活動への積極的参加を！ ～今年度、校外活動に参加しましたか？～

進路だよりで、毎回“校外活動”のメリットについて触れてきました。ボランティア活動や体験活動に実際に参加すればするほど、自分の目で見て感じることの重要性に気付くと思います。春休み中に「春の看護師体験」や「サステナジョブツアー」に参加する人もいます。これらの取り組みを通して社会との繋がりについても考える機会としてもらいたいと思います。

③オープンキャンパスに参加しよう！

新2・3年生を対象としたオープンキャンパスが既に始まっています。体験活動と同様に、実際に参加して五感を使って得た情報はとても信頼できるものだと思います。比較検討するためにも必ず複数校のオープンキャンパスに参加しましょう。そして、疑問点などは積極的に必ず質問してきてください。なお、事前予約を必要とする学校も多いのでHPや掲示用チラシを参考に確認し、まだの人は早急に申し込みをしましょう。（申込みは各自です。）